

令和4年度 第2回 津山市スマートシティ推進協議会議事概要

日 時：令和4年11月24日（水）

13：00～14：25

場 所：津山市役所 第1委員会室

1 開会

栗村副市長挨拶

スマートシティ実現のためには、行政手続きの都市機能をデジタル化に対応した形に大きく転換し、あらゆるデータが必要なときに、迅速かつ過不足なく共有できる体制を早急に構築する必要があるため、幅広い視野から、忌憚のないご意見をいただきたい。

2 議題

(1) 津山市スマートシティ構想における各分野の目指す姿（案）について

事務局から説明

スマートシティ構想全体の構成ですが、目指す姿を核といたしまして、導入部分や、LWC指標に関する現状、スケジュール、また、並行して進めております慶應義塾大学との共同研究の結果などを盛り込んだものとする予定です。

津山市スマートシティ構想における各分野の目指す姿（案）の質疑応答、意見招集

《質問》 全体構想の後の分野ごとの進め方を教えていただきたい。

《回答》 各分野ごとの今後の取り組みにつきましては、やはり産学官の連携を基調としたプラットフォームが必要になってくるというふうに考えております。

《質問》 分野が幅広いので人数的なことも含めて実行段階になったときの協議会のあり方はどう考えているのか。

《回答》 協議会の構成につきましては、今後さらに改変といいますか、いろんな事業者の方が加わるような枠組みにさらに大きく強くしていく必要があると考えております。

《質問》 各分野ごとに、サービスの具体的なイメージを示されておりますが、これをベースに進めるんだという考え方でしょうか。

《回答》 現状をある程度、行政の側から分析をして、考えられる課題、それに対応するための対応策ということで、整理をさせていただいております。

《質問》 現状津山市で導入されている電子マネーのシステムを活用すれば電子ポイント・通貨は実現できると思いますが、それ以外のものを既に考えられているという理解で良いか。

《回答》 津山市で導入しているeつやま商品券は基本的には新型コロナの経済対策的に、市

が全面的に原資を出資をし、運用している仕組になっておりますので、今後、地域内でキャッシュが回り続けるような仕組が構築できないかということを検討していこうというものでございます。

《意見》電子商品券を導入する場合、事業者の理解を得るために地域の通貨の量をシミュレーションして、どれだけ地域に利益をもたらすか示す必要があると思います。

《質問》合併後、津山市はかなり広い範囲になっており、中心部と高齢化がすすむ周辺部では全く違う人の動きになっているような気もしますが、何か考慮してるものはあるか。

《回答》例えば交通の分野では、次世代のMa a S、ICカードの決済対応策などによって移動手段にお困りの住民の方への対策を検討させていただけるかと考えております。また、環境エネルギーの分野において、森林面積が非常に大きな割合を占めている市に森林資源を活用した脱炭素等のデジタル技術を導入するという検討も可能であろうかと考えております。

《意見》津山市が大都会に負けない幸せ効果を得るためにデジタル化を進めるという点を小さく絞るとやっぱり地方が周辺こそ大事に、人のためになるように、という考えもあると思います。

《質問》今後の具体的な進め方のところで、例えば我々であれば教育分野での協力は可能だと思いますが、パブリックコメントが終わってから、別組織と具体的に進めていくという理解でよろしいですか。

《回答》構想を策定した後の早々の推進体制というのが懸案になりますので、引き続き今の枠組みも基本的には維持しながら、個々に立ち上がる事業にそれぞれのプロジェクト、といった体制を組み、その中に参画していただく形を想定しております。

《質問》例えば教育分野のプロジェクトを立ち上げる時には、私は引き続き参画して意見等も述べさせていただくというような流れになるという理解でよろしいでしょうか。

《回答》そのように想定させていただいております。

《質問》マイナンバーカードが普及していない理由として、マイナポータルサイトのセキュリティ上で何か不具合があった時に国が責任取らないなど不信感もあるのかと思うのですが、現状、津山市でマイナンバーカードはどの程度普及していますか。

《回答》今、手元に直近の数字がありませんが、10月末以降で50%を超えているという推計はしております。

《質問》取組を具体的に落とし込む場合にはIDとしてマイナンバーカードが必要になると思うのですが、どう普及させていくかお考えがあれば教えていただきたい。

《回答》マイナンバーカードを使ってどういうサービスが提供できるか色々な可能性を想定しているところでございます。

《質問》津山市でプロジェクトを立ち上げ、デジタルに落とし込む場合、その際のコンテンツ、プラットフォーム、アプリは、地域の業者を中心に選定し独自のものを開発するのか、既存であるものを活用するのか教えてください。

《回答》両方とは思いますが、市内のICT関連企業の皆様に課題解決のための取組をご検討いただくICTコネクトという機関も今はございますので、産業支援センターを中心に課題を出ささせていただいて、ご提案いただけるような仕組みというの、今後導入できるかなというふうに考えております。

《補足》マイナンバーについては、市が最大限の努力を払ってこの登録を進めているところであります。個人情報情報が暴かれ不利益をこうむらない制度で設計されているにもかかわらず、その誤解があるので、出来れば国に大々的に宣伝してもらおうということも必要かと思えます。

《質問》資料で地域通貨、電子通貨を特筆している表現が見受けられるが、あくまでも商工、商業者の方の理解のもとに成り立つことですし、ハード整備の導入なども必要ですので、可能性、提案ということであれば少しその書き方や表現を遠慮していただいたほうが良いと思います。

《回答》地域サプライチェーンの構築というところが地域内循環経済を構築する1つ大きなポイントとなると思っておりますが、この色を特筆する必要があるのかというのは、ご指摘として承りたいというふうに思います。

《質問》産業界で一番気になっているのは、人材不足です。取組内容に産業支援センターの活用による人材育成というようなことも書いていただいた方がいいのかなと思います。

《回答》人材が少ないという大きな課題については、産業支援センターのオープンイノベーションの取組などで、異業種の方と色々な議論をされる中、解決の糸口が見えてくるものもでてくるかもしれません。そのような企業の部会の課題が、他の業種の方にも共有ができるような場も活かしながら、解決に結びつけていけたらというふうに思っております。

《質問》IT基盤の目指す姿ですが、ハード整備が一番なので、5Gの環境だとか、IT化の支援だとか、そういうふうな具体的なことをもう少しここで膨らましていただいた方が、良いかと思えます。

《回答》IT基盤については、ご指摘のような通信環境も、市として整理をするものも当然ありますし、通信事業者へお願いをすることで出てくるかもしれません。ここにページを割いて記載はございませんけども、市の取組の中にもこれにないものも含めて、総合的な基盤整備を進めていきたいというふうに考えております。特に都市OSというのが、これからのデジタル化の中で大きな重要な基盤になってくるということがありますので特筆をさせていただいておるといふものでございます。

《補足》地域内循環のところ、デジタル通貨に限らず市長の大方針で地域内循環が大事だということがあり、ここにもトピックス的に書かせていただいております。また、産業支援センターでは全企業に対するDX化のヒアリング、導入支援を行っており、津山まちなかカレッジでは働いてない方や主婦層のデジタル知識向上のための勉強会の実施も拡大する方向にあります。さらに、基盤のハード整備についても市長の指示のもと、数年の内には光ファイバーの空白地域も無い状態に持って行かせていただきたいと考えております。

《質問》IT基盤の中にベースとして危機管理という点、災害時対応、通信障害の問題等々の対応やどう考えるのかという記載は大事だと思うのですが、そういうものは入らないのでしょうか。

《回答》行政のポータルの仕組の中で、個別最適な情報の発信ができる、住民の方にその地域に特化した避難情報が出せるとかですね、そういう仕組みはこの中でも導入が可能であろうかと考えております。早々に具体的に取り組む事業の中には、記載をしておりますが将来的には当然、そういったサービスも導入されてくると思っております。

《補足》情報発信につきましては、今検討している内容もございますので、それにつきましては、今後お話ができればと思っております。

《質問》スマートシティが実現することで域外から津山市に住みたいと思う人が増え、人口が増える形になっていくのか、非常に関心の高いところでありますので、お考えをお聞かせください。

《回答》人口減少対策につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略という、別の取組の中の大きな柱であるデジタル・グリーン・ヒューマンという切り口で、総合的に進めていこうと考えております。デジタル分野につきましては、都市部の高度人材を地域の課題解決のために関わっていただくための仕組というのが、一つは関係人口、交流人口、の増加、最終的には、定住人口の増加に繋がってくると考えております。また、若者の新規創業についても、産業支援センターでそのような人材の交流会を立ち上

げたところでございますので、新しいビジネスの創出ができるようなプラットフォームを並行して整備をしていくことによって、人口を増やしていくというところに取り組んでいこうと考えております。

《意見》美作大学では6割が県外者で卒業後は県外に戻りたいという希望を持っているのですが、Uターン就職支援も行っています。Uターン就職は、もともと自分の育った地域という愛着があつてのことですので、その人材確保の方策等を付随的に考えていくと人口も多少なり増加も望めるのではないかと思います。

《意見》人口減少高齢化が進み、小規模事業者の6割は後継者問題によって黒字でも廃業となる状態となっており、事業者数の減少も進む中、域内循環だけではその問題は解決できない。その課題を解決しない限り、幸福感を感じることは難しいのではないかと考えます。事務局の説明の中にもあつたとおり、このデジタル社会でデータ技術を駆使し、若者の選択肢が増えるような就労の仕組みを考えていくことが今後必要になると思います。例えば、熊本県の高森町では漫画のコンテンツ配信をしている出版社とタイアップし、アーティストビレッジという拠点を作り、漫画家を集い、コンテンツの配信、漫画家や企業と提携した制作機材の導入などを支援し、若い人のダンス、ゲーム、音楽など趣味からビジネスにまで発展する可能性を秘めた取組を今後実施するというものもあります。漫画に特化ということではないですが、若い人の選択肢を増やす、或いは若い人がそういう企業を目指すための支援をするような、データ技術の環境を整備するなど面白い取組をしていただきたいなという意見となります。

《補足》まとめますと、住んでいる方の幸せをまず追求していきたいということ、スマートシティ推進によって3大都市圏と同じような企業活動、生活ができること、Iターンとか企業内、地域内企業の活性化を目指し、交流人口を増やすことによって定住人口も増やすことご意見と思います。当然、目指すべきは定住人口の増ですが、日本全国の人口が減っていく中で、大きな課題でありますので、色々な方法をあわせて取組を進めていきたいと思えます。

《意見》各分野でももう少し内容を絞った上で、どこに重点を置くのか、具体的なものが示されるともう少し分かりやすくなるかと思います。例えば、交通分野ではICカードとか、電子決済といったものが遅れていると思っています。

《補足》ごんごバスにICカード決済を導入する予定です。この対応は遅れていますので、これはとても大事な話であると認識しております。

《意見》教育の分野での目指す姿について、スマートシティ、或いは教育のDXでは、遠隔授業やコンテンツを充実したオンライン学習の取組がよく見られますが、その実現の

ためには学ぶ側の自学自習の心を育て、利活用を推進することが重要だと思います。また、不登校や、勉強がしたくないという色々な悩みを持つ子どもたちにも配慮した形で学習したいと思えるようなコンテンツ作りも理念として必要かと思います。それを目指した形での仕組みを作らないと、実効性がない形だけになってしまうのではと危惧を感じました。

《意見》観光は、一番デジタル化すると効果があって、皆が求めているもので分かりやすいと思います。現状課題にある顧客接点との活用、データ利活用について、デジタルDMOプラットフォームの構築という方向で仕掛けていくのは非常に良いと思います。経済も潤い、交流人口も増え、ひょっとしたら定住人口も増えるかもしれない、大事だと思います。

交通においては、交通政策課もありますので、蓄積データの共有化による利活用という切り口でもう一つ資料単位でいただければと思います。企業、商工会議所ともに交通は課題として認識しています。あと1点として、空港のデマンドタクシーを入れていただければ非常にありがたいなと思います。マイカー以外の唯一の方法ですのでこの体系の中に入れていただければなと思います。

それから、前回も申し上げましたが、税金申告とか支援、補助の手続きがデジタル化することによって、家族経営されている商工業者が廃業の危機になっているという事実があります。特にインボイス制度の導入、これは消費税の転嫁という視点もありますが、廃業促進税制だというような言い方も出回っています。市民一人一人に寄り添い、人が幸せになるということが大前提でありますので、関連論ではありますけども、推進される方は、理解していただきながら進めていただければというふうに思います。

《意見》観光の目指す姿ですが、津山市の観光だけのことを言っているのかと受け取れました。訪問客からすると、津山市だけでなく、当然周辺の観光もしたいわけですから、コンテンツをデジタル化していく場合には、周辺自治体も対象にする必要があるのではないかと感じました。岡山県が令和5年度だったと思いますが、県北地域、20の自治体を対象にして、アートを題材にしたプロジェクトを組んで観光振興を図る計画をされております。県の方からも商工会の方に協力依頼がありました。概要としてはイタリアのジャコモという方が公民館、或いは空き家、空いた公共施設を活用し、アートを作るといったものです。古いものと新しいものが融合する形なので、なかなか面白いなというのを感じました。せっかくの機会なのでそういったコンテンツも対象にしてはどうかと思います。

(2) スマートシティ構想策定の進め方について（資料2）

事務局から説明

市のホームページにこの目指す姿と事例集を掲載し、広く意見募集をしていく予定です。今月21日の日曜日には、住民意見をこの構想に反映をさせていくということを趣旨としたワークショップを開催する予定です。また、国から示された幸福感と暮らしやすさを把握するための主観指標に沿ったアンケートを実施する予定です。詳細は別途説明いたします。1月にはスマートシティ構想案を策定し、第3回の協議会で皆様にご意見を伺い、パブリックコメントをするというふうに考えてございます。

津山市スマートシティ構想における各分野の目指す姿（案）の質疑応答、意見招集
質問、疑問、意見なし

3 その他

事務局から説明

第1回の協議会で概要説明しましたLWC指標につきまして、国から具体的なアンケート項目が示されましたので、住民基本台帳から2000人の無作為抽出で18歳以上の方を対象とし、11月下旬から12月初旬にかけて、調査票を郵送してアンケート実施をいたします。締め切りは12月23日金曜日の予定です。

《意見》商工会議所の中で委員会を作り、その中のデジタルシフト推進委員会の活動の一つにスマートシティへの提言ということに記載しております。どこかのタイミングでお声を掛けますので、ぜひ委員会の皆さんと、意見交換をしていただければと思っております。

4 閉会